

Salon de Harem Vol. 1



ハレム美容室の終わりと、サロン・ド・ハレムの始まり

もくじ

- 1枚目……………表紙
- 2枚目……………目次
- 3～5枚目……………身内の話
- 6枚目……………Salon de Haremについて
- 7枚目……………なんこつ氏による音楽ページ
- 8枚目……………あいぽん書道
- 9枚目……………不幸のメカニズム
- 10枚目……………あいぽん絵画
- 11枚目……………なかがき
- 12～13枚目……………個人的な主張
- 14枚目……………手品
- 15枚目……………小さな自慢話
- 16枚目……………リビングのページ
- 17枚目……………健康のページ
- 18枚目……………グルメのページ
- 19枚目……………巻末ぽえむ
- 20枚目……………あとがき

ハレム美容室の終焉 2011年元旦

「店、閉めるけん」と、母は明るく言った。

半世紀以上続いたハレム美容室の歴史は、あっけなく幕を閉じた。

前年秋、テーブルの移動中に転倒し、圧迫骨折で入院した母は

「年が明けたら、また店を開ける」と言っていたのだが、

「もう、きつか」と閉店を宣言した。

全盛期は3〜4名の住み込み従業員を雇っていたが、

私が思春期を迎える頃、若い女の寝乱れ姿が散乱する住環境で

一人息子を育てるのに疑問を感じたのか、少しずつ従業員を減らし、

この30年くらいは一人で店を切り盛りしていた。

客は、母と同年代以上の女性に限られていた。

話し相手が少ない地元のお婆ちゃんたちにとって、ハレム美容室はオアシスだった。

当然、常連客からは「開け続けてほしい」と懇願されたいらしい。

でも、老人が老人にサービスを施すことは、想像以上に負担が大きいのだと母は言う。

私は、人が仕事を辞すことはできるだけ避けるべきだと思っていた。

死ぬまで仕事を続けることが幸せな人生だと思っていた。

だから、とても残念に感じていた。

しかし、母には美容師という仕事以外にも大切な仕事があったのだった。

ハレム美容室の亭主 2011年 春

父は、いわゆる髪結いの亭主である。

もともとは理容師だった。母といっしょに岩国米軍基地で理容師として働いていたのだが、熊本に帰り、店を持つことになったとき、これからは床屋より美容院だろうと、自分は外へ働きに出ることにした。とはいえ、基本は職人。世渡り上手ではない。美容組合の事務仕事、タクシーの運転手、美容用品の卸会社など、職を転々とした。

母に比べ、収入は少なかった。寡黙であった。酒を飲むと女好きだった。

息子といっしょに家を青いペンキで塗りたくったり、免許証の写真に落書きするなど、すこしアバンギャルドなところもあった。

友人も少なからずいたのだが、退職後、ちよつとずつ来客も減ってしまい、ひとりでテレビを見て過ごしていることがほとんどになった。

そして、最近、不機嫌だった。母が怪我をしてから、とくに不機嫌になった。ところが、母が店を閉めてから、明るくなった。よく笑うようになった。

軽い脳梗塞を患ってから、目にチカラがなくなってきたが、光を取り戻しつつある。母といっしょにいる時間が増えたことが理由であることにはまちがいない。

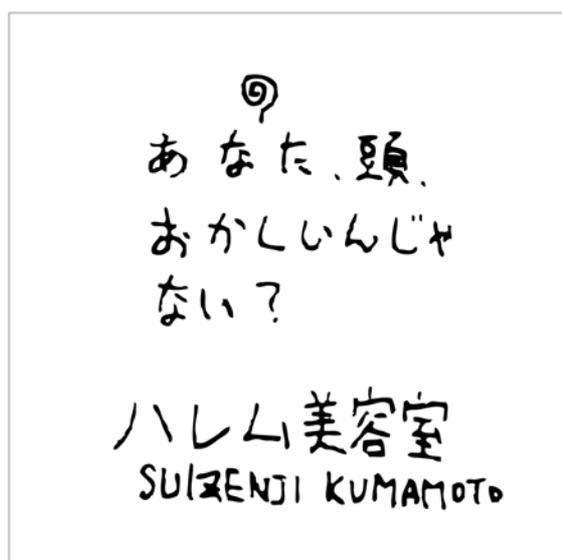
母が自分の世話に専念してくれるのがうれしいのか？

もう母が無理をしないでいてくれるのがうれしいのか？

ある意味、母は、父のためにまだ仕事を続けている。

ハレム美容室の息子私。

ハレム美容室の「ハレムとは、
ネーミングを担当した父親によると
「フランス語で“女の城”という意味だ」とのこと。
ちなみに、つづりは Harem であって、Harlem ではありません。



「Salon de Harem」って屋号を何らかのカタチで
遺していきたいと、とりあえず電子フリーペーパーなるものを思い立ちました。
コピーライター引退後は、表紙の写真にある店で
ほそぼそと、なんかつくっていただけたらいいなと思っています。

電子フリーペーパー版

Salon de Harem について

この Salon de Harem は、電子フリーペーパーです。
が、役立つ情報も少なく、クーポン等もついておりません。

内容は、Twitter や FACEBOOK で表現すれば済むことばかりです。
でも、もちよつと、なんというか、存在感が欲しいなと思いました。

で、考えたのが……

たぶん「重さ」と「ジャマさ」と「めんどくささ」があれば、
リアルな本や雑誌に近づけるのでは？

ということで、

パソコンに保存してると、軽くジャマになるくらいの
データ量を目指しています。(まだ軽いけど)

Web も詳しくはありませんし、いまんとこデザイナーの手も
借りていませんので、いろいろチャチいです。
不都合も出てくるかもしれません。

でも、志はあります。

すべてを呑み込み、すべてを吐き出す、
新しいプラットフォームになればいいなと思っています。

サンボマスター・ライブの感想。

文:なんこつ

久しぶりのオールスタンディング・ライブでした。
すごいエネルギーに盛り上がりで、おっさんは圧倒され続けでした。

僕の世代にルースターズが、ローザ・ルクセンブルグがいたように、
少し下の世代には、ユニコーンやブルーハーツやニューエストモデル、
ミッシェルガンエレファントがいたように、今の世代にはサンボマスターが必要なのだろう。

あえて言わせてもらうと、サンボマスターをたらしめているのは、
ボーカルの山口さんの声とロックンロールへのこだわりを感じる。
ある意味すれすれで、一步間違えば、世の中に凡百とあるヒット狙いの若者応援ソングと
それほど変わらない歌に墮してしまう可能性をはらんでいる気もした。
そのギリギリのラインを山口さんの声とロックンロールがリアルに繋ぎ止めている。
当然今の時代を生きている山口さんにリアルなのは、そういう歌が溢れている
世の中だから、歌詞に反映してくるのはある意味必然かもしれないが。

オリジナルと普遍は矛盾する言葉ではないと思う。
今まで誰も聞いたことのない歌詞であっても、
それが普遍的な力を持つことがあり、
それこそが、自分の創りだした普遍というものだと思う。

そのためには、自分の悲しみや怒りに向き合わなくてはならないと思う。
「歌で人を動かす」前に、
「自分をすら救えないかもしれない。でも、こう歌わずにはいられない」という
一種、諦めにも似た場所から、自分オリジナルの普遍が生まれてくるのではないだろうか。

ポジティブになって、励ましたいって気持ちも、こんな時代だからわかるんだけど、
僕には励ましとかではなく素直に気持ちを歌った

『I love you & I need you ふくしま』が一番素直に届いた。
「I love you」「I need you」とか常套句を使わなくてもいいような気もしたが。

いいライブだったからこそ、敢えて苦言を吐くのがおっさんの役割だろう。
なんて職務に忠実なんだ。ワシは。





ジミー・ペイジさん、来日ならず

不幸のメカニズム

「不幸大連発」

学校に着いた私は、早速カメラを構えた。しかし、フィルムが入ってなかった。私は、近くのコンビニへ走った。

フィルムをセットし、またカメラを構えた。しかし、電池が切れて作動しなかった。私は、また近くのコンビニへ走った。

しかし、コンビニに私のカメラに合う電池は売ってなかった。

バイクを飛ばしてカメラ屋を探した。午前十時前で、どこも開店していなかった。

やっとの思いで現像ショップを発見。電池を購入し、急いで学校へ戻った。

電池を入れ、カメラを構えた。しかし、息子が出走した徒走はシャッターを切る前に終わった。

息子は一等賞でテープを切っていた。

気を取り直し、次に息子が出走する障害物競走で、私はシャッターを切り続けた。しかし、広角レンズのため、息子が小さくしか見えなかった。

後日現像すると、写真に写っていたのは、よその子だった。

なぜ、不幸は連続するのか？

不幸の発生 # 動揺する # 不注意になる # 不幸が起きる可能性が高まる # 不幸が連続する

なぜ、幸福は長続きしないのか？

幸福の発生 # 喜ぶ # 気持ちがゆるむ # 不注意になる # 不幸が起きる可能性が高まる # 不幸になる

ある秋の日に

その日、息子の運動会であった。私は、朝、カメラの準備を始めた。しかし、望遠レンズが見当たらない。広角レンズしかない。

これでは、息子の躍動的なシーンを迫力満点に激写することができない。

私は、慌ただしく弁当を作る妻に

「おおい、望遠レンズ知らない？」と聞いてみた。すると妻は、眉をひそめて、

「なんで、昨日言わなさいの？」

望遠レンズは私の実家に置いてあるわよっ！開会式が始まろうというのにまだ弁当を作っている妻を残して、私はバイクで学校へ向かった。

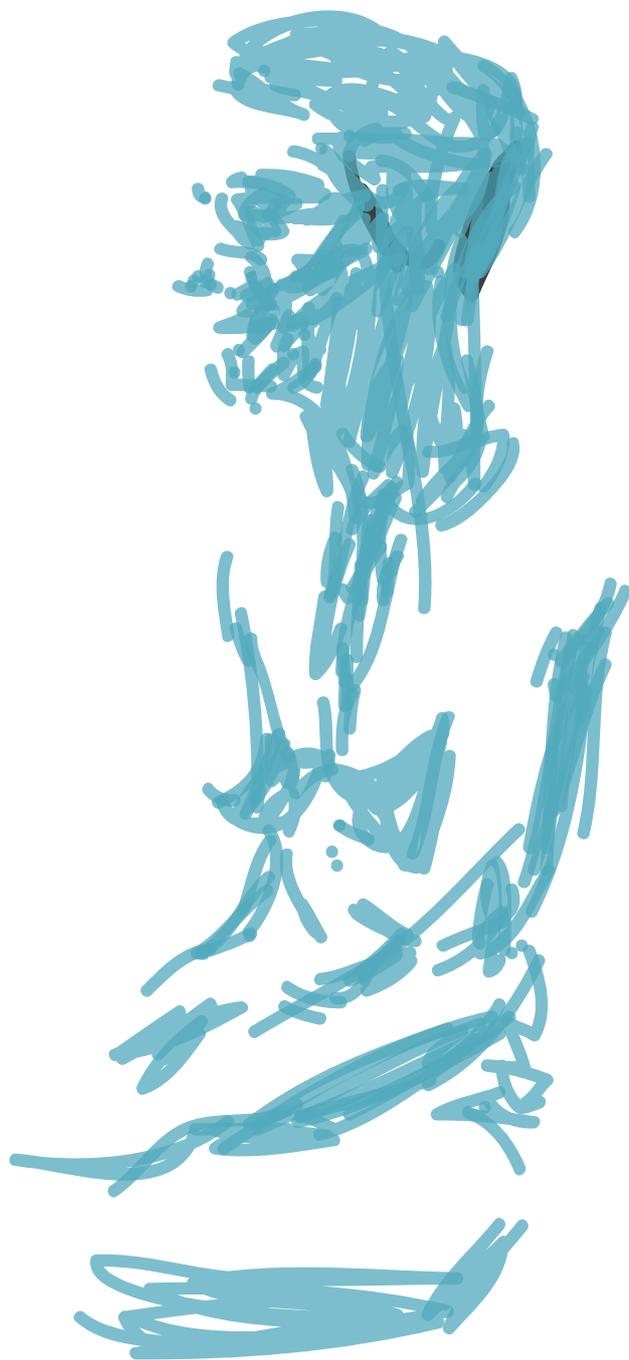
これが「不幸その1」である。その後、恐るべき不幸は連続して私を襲ったのである。

【すべての原因】

前の日にちゃんと準備しておけばよかった。不幸は加速していく。



裸夫像



Model: Shunichi Torii

なかがき

途中ですが、Salon de Haremは
「未定の美学」をたいせつにしています。

未定は、まっしろけということです。
未来は、誰かが期待していたり、
計画していたりするものだと思います。

未来が清涼飲料水だとすれば、
未定は真水のようなものでしょう。

(そうかなあ?)

まあ、未来という言葉が偉そうだから、
未定の方が好きなんです。

とりあえず、先のことは
何も考えずにやっていますと
宣言させていただきます。

広告制作者は、アーティストであるべきだ。
営業だって、アーティストであるべきだ。

公務員だって、医者だって、ホームレスだって、
世界中の人が、アーティストであるべきだ。

論

世の中、作家性のない仕事であふれていると思うのです。

だから、つまらないと思うのです。

よく広告制作者は、広告とアートはちがう。僕たちはアーティストではない。

みたいなことを言うけど、「ホントにそかな？」と思うのです。

私の「作家性」の定義は、「強い趣味性」です。もつと噛み砕いて言うと

「誰にも理解されないかもしれない趣味・こだわり」です。

たとえばコロツケ職人のパン粉や油へのこだわりを聞いて

「なるほど！」と思うでしょうか？ いや「何のことか、わかんない」度が強いほど、

「うまい！」度は上がるのではないのでしょうか？

作家性があるということは、その人にしかできない仕事があるということです。

広告制作者だけでなく、すべての人がアーティストを標榜するべきです。

自分の仕事は、もはや芸術なのだ！ と胸を張れるような仕事っぷりを見せるべきです。

と、最近、思うのです。

百万円札



オスの花もある。

ソラリアプラザのゼファアのイベント告知用のポスターで書いたコピーです。ビジュアルが、あやしい花だったので、特に意味もなく書いたコピー。それが許してもらえる時代でした。

なぜか、昔はどんなコピーを書いていたっけ？ と振り返ると、いちばん最初に思い浮かぶのが、このコピーなんです。

サブミナル要素である「性」を感じるコピーだからでしょうか？

それとも、あまりに何のコピーかわからないコピーだからでしょうか？
そういえば、ソフトバンクホークスで書いた「男、投げ。男、打ち。」も性を感じるコピーのカテゴリーだと思います。

「倍返し。」は、暴力↓「死」というサブミナル要素を含んでいるかも。

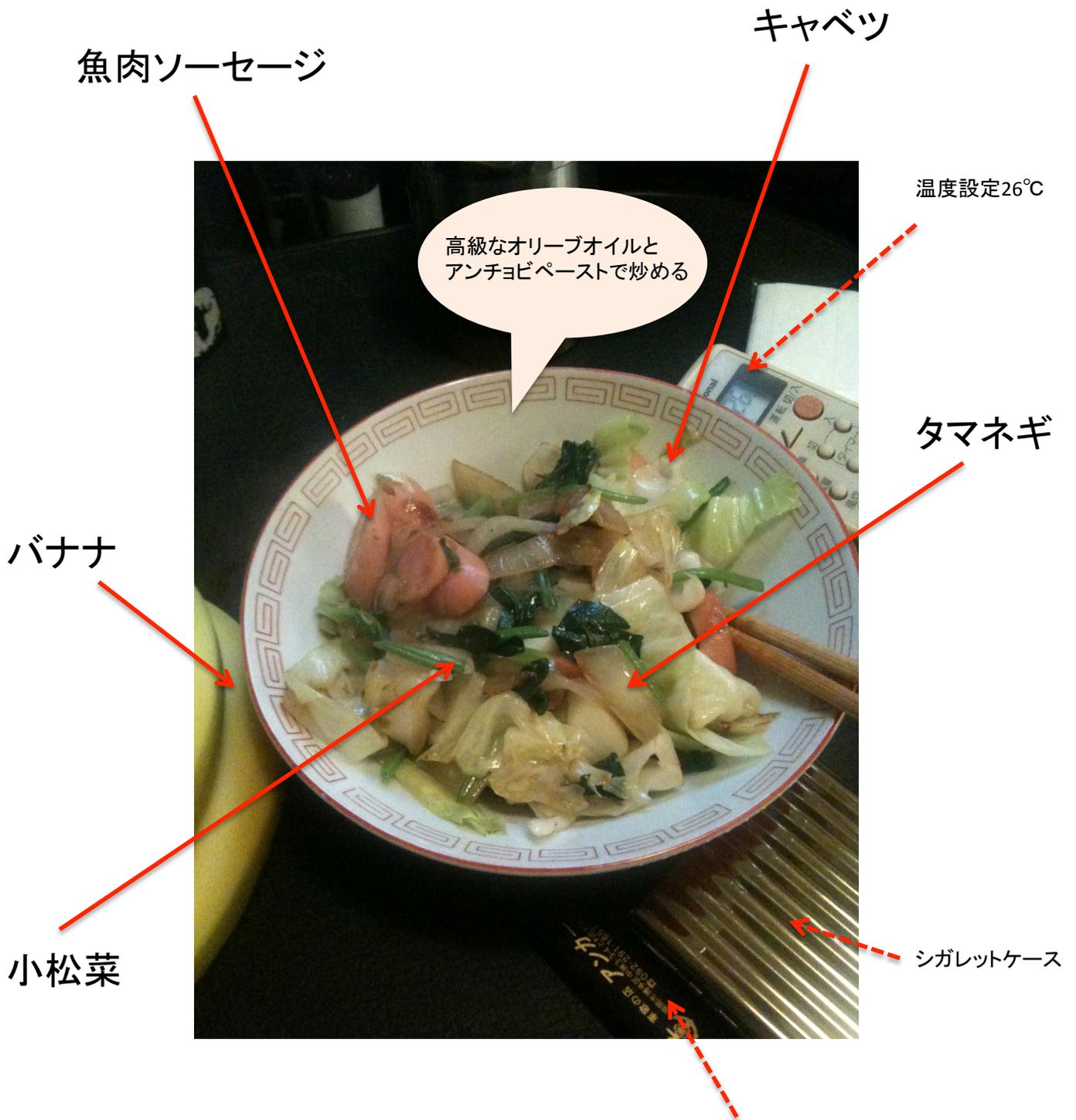
汚い部屋シリーズ



ヤフオクで、3100円で落札した阿部ガットギター。
これが、けっこう掘り出し物。
付属のハードケースは、テーブルの役割も担うことに。

そして、新しい仲間を迎え入れた、私の汚い部屋。
ますます、にぎわいのある部屋になりました。

ヘルス健康



★野菜を食うと、体調いいですよ！

軍歌バーのライター



これで一人前。

たしか、魚の唐揚げ定食。

たしか、千円しなかった。

間違っていたら申し訳ないけど、
とにかくベラボーに安かったとです。

しかも、美味さもハンパない。

能古島の「雑魚(ざつこ)」というお店です。

食っても、食っても、お魚さんの嵐は止まず。

一人前の定食だけでビールは飲むは、

焼酎は飲むはで、二時間くらい大騒ぎですたい。

渡船場降りたら、すぐ目の前です。

そこの大将曰く。

料理のプロと素人の違いは、

手を抜くか、抜かないか。

たとえば、自宅で揚げ物するとき

油の温度なんて気にしないでしょ？

プロは、それを気にする。それだけです。と。

その痛みは、「生きる」というメツセージ。

その悲しみは、「生きる」というメツセージ。

その絶望は、「生きる」というメツセージ。

その震えは、「生きる」というメツセージ。

その怖れは、「生きる」というメツセージ。

その涙は、「生きる」というメツセージ。

編集後記

おわかりいただけましたでしょうか？

編集・発行人：ピート手島ハレム裕司ピンク

広告

タダで脱いでくれる
読者モデル募集中♥

ご希望の方は下記アドレスまで



harem@aol.jp